

発行所(郵便番号100)
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング617号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (3212) 4007・1480
Fax (3212) 1447
編集責任者 岡 沢 憲 美
印刷所 関東図書株式会社
定価200円(年間購読料参千円)
1991年6月25日発行
第23巻第6号
(毎月1回25日発行)
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.23 No.6

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.617. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

スウェーデンのECへの加盟申請とその経済効果

Sweden will Enter into European Community
and its Economic Effects

評議員 東海大学教授 永山泰彦
Prof. Yasuhiko Nagayama

スウェーデンは今年7月1日、正式にECへの加盟を申請することをきめた。EC委員会はスウェーデンを含め、フィンランド、オーストリア3ヶ国のEC加盟申請を、実現の方向で検討することになった。

スウェーデンの経済・社会制度、福祉などは、その中立政策をぬきにして論ずることはできない。米・ソ二大国が対立し、NATOとワルシャワ条約機構が軍事的に対立していた時代には、スウェーデンの中立政策は大きな意義があった。そして、経済的にはEFTA(フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スイスおよびオーストリア6ヶ国)と北欧共通市場による共同市場はそれなりに機能してきた。

スウェーデンがECへの加盟を申請する直接の動機は、来年末に迫った「1992年・EC市場統合」であるが、さらに決定的なものは、89年11月、ベルリンの壁が崩壊し東欧諸国の自由化・民主化が急速に進み、ソ連の変革が進んだことである。米ソ二大国による東西冷戦の時代は終焉し、ハンガリー、チェコスロバキア、ポーランドなどの東欧諸国は、ECへの参加の意思を示している。したがって、スウェーデンの中立維持の理由は弱まったわけである。

80年代後半、スウェーデン経済が伸び悩み、経済活動もあまり活発でなくなった背景に、スウェーデンの有力企業が国内投資を削減し、EC域内(とくに、ベネルツック、イギリス、スペイン等)への海外直接投資を拡大し、92年に対応した反面、外国企業のスウェーデン国内への直接投資も不振であった。国内の固定資本形成はGDPの19%におち込んだ。つまり、国内の空洞化が発生したわけである。福祉や生活水準の向上を維持するためには、経験的に固定資本形成がGDPの20%以上必要である。なお、日本は29.0%、アメリカは17.9%であった(1980-87年平均)。スウェーデンの経済不振は福祉の行き過ぎが原因ではないわけである。

目次

スウェーデンのECへの加盟申請と その経済効果……………永山泰彦…1
スウェーデンの幼児保育について語りあり ……………荒井 冽、尾脇 直子…2
(新刊書紹介)世界の留学—現状と課題……4
SIPニュース……………4
(お知らせ)NHK社会福祉セミナー7~9月号…6

スウェーデンの幼児保育について語りあう

An Interview with Mrs. Owaki about the Pre-schooling in Sweden

聞き手・文 白鷗女子短期大学教授 荒井 洸
Prof. Kiyoshi Arai

語り手 川崎市立古川保育園保母 尾 脇 直 子
Nursery-teacher Naoko Owaki

スウェーデンの印象

Q. 川崎市の海外派遣研修でスウェーデンに行つてこられたとか……。

A. 平成2年度は、川崎市から15名の職員が海外研修に派遣されましたが、そのうち女性が4名でした。私は、ドイツとスウェーデンの保育園や幼稚園を見学してきました。

Q. スウェーデンでは、どのくらいの保育園を見てこられたのですか？

A. 1週間ほど滞在して、ストックホルムで6か所、ソレンツーナで3か所の保育園を訪ねました。

Q. まず最初にスウェーデンの印象をお聞きしたいのですが。

A. 税金が高いということにはびっくりしてしまいました。消費税が、なんと25パーセントなんです。うわさどおりに福祉の面はとても充実している様子で、お年寄り、子ども、女性などにとってはいい国だなあと思いました。でも、たくさん働いても、それだけ税金を多く取られるし、働かなくても自治体がなんとかしてくれる、といったようにも見えます。そのへんのところが問題点ではないかなあと、私なりに感じました。

Q. 女性の地位といったことについては、どんなふうに受け取りましたか？

A. スtockホルムの市役所へ出かけて行って驚いたのですが、市議会議員の一覧表が貼ってあったので見てみると、男女の比率が見事に半分ずつでした。スウェーデンの女性の社会的な面での活躍ぶりを、よく表わしているように思えます。

保育園の園舎と園庭

Q. まずは保育園の外観的なことですが、園舎や園庭についてはどんな印象を持たれましたか？

A. 園舎は、もとは病院だったところや、立派な私邸だっただろうと思われるところを利用して、保育園として使っている所がありました。それから、市街地の集合住宅の中に作られている所にも出かけました。もちろん、日本の一般的な保育園と同じような感じに作られている所もあります。

Q. 園舎内の部屋の造りは……？

A. 子ども15人程度の1グループについて、ロッカールーム、広い保育室、ダイニングルーム、ままごと遊びの部屋、といった具合になっています。その他に、ホールや工作室、シャワールームなどもあります。就学直前の6歳児のための勉強部屋といった部屋もありました。日本の保育園の現実と比べてしまうと、とてもうらやましくなってしまう……。

Q. スウェーデンの保育園のインテリアはすばらしいですね。

A. ええ。壁の装飾は、カラフルな布のパッチワークやタペストリーだったり、額に入った絵がかけてあったり、子どもたちの作品が飾られていたり、とてもセンスがあり、落ち着いた雰囲気になっています。

窓は出窓になっていて、観葉植物がたくさん置いてありました。

Q. 部屋の種類や使い方なんですが、ままごと遊びの部屋というのは面白いですねえ。

A. そうなんです。とてもよく出来ていて、木製のレンジや流し台はどこにもありました。人形用のベッドやテーブルやソファなどが、とてもかわいいんです。

子どもたちが変装するための衣装や小道具もいろいろあるんですよ。どれもがきれいで、子どもたちは本当に幸せそうに遊んでいました。

Q. ダイニングルームはどうでしたか？

A. まさに家庭生活をモデルにしていると言ってよいと思います。テーブルや椅子もふつうの高

さになっていて、きちんとした形で食事をする
ことが出来ます。小さな子が腰掛ける場合、そ
の位置が高く作られているんです。

部屋の中にある流し台で、子どもたちは食事
がすむと、自分たち自身で食器を洗います。ダー
グヘム (daghem)、つまり昼間の家庭という
考え方を十分に配慮した上でデザインされてい
ると思いました。

Q. それにしても環境条件には力を入れています
ね。日本でも環境による保育とか言って掛け声
は立派なのだけども……。

A. ある園に行ったとき、たくさんお仕事をかか
えながら、なおかつ美しい環境を整えるのは大
変でしょうね、といった主旨のことを園長先生
に申し上げたら、「園を美しくしておくことは、
子どもにとっても、働く者にとってもとてもよ
いことです」とおっしゃっていました。私も本
当にそうなんだなああと、つくづく感じました。

Q. 園庭の方はどうですか？日本の園庭につい
ての考え方やデザインとは違ったものだと思うの
ですが……。

A. 基本的な考え方が違うようです。日本の保育
園の園庭は、ふつう平らな地面といくつかの固
定遊具ですよ。あちらの園庭には山があったり
して、よじ登ったり、坂を転がったりして遊
びます。

市の中心部にある保育園なんですけど、自然
の木を切ったものを利用して、トム・ソーヤー
の冒険のような基地が作ってありました。見た
だけでワクワクするような作り方なんです。

その他にも、ログハウスや、外で食事ができ
るようなテーブルやベンチも見られました。

木も多く、落ち葉がそのままにしてあり、自
然のままの庭といった印象を持ちました。

子どものグループ編成と保育者

Q. 日本では年齢別クラス編成が一般的ですが、
スウェーデンの場合はどうなっていますか？

A. 私が訪問した保育園では、どこでも異年齢の
子ども同士が集まったグループ編成をしていま
した。日本式に言えば異年齢混合保育というこ
とでしょうか。人数は、1グループが15人くら
いです。

保育者の配置は、この1グループについて2.5
人という基準になっていますが、実際には3人
が勤務しています。

保育者の資格は、高等教育レベルで取るもの

と、後期中等教育のレベルで取れるものとの2
種類があります。どうしてこのような二重構造
になっているのか聞いてみたのですが、経済的
な理由からだといった答えでした。ちょっと意
外な感じがしました。

Q. 日本でもこのところ急速に問題化し、また対
応を迫られていることとして、外国人の子ども
の保育ということがあります。そのことについ
て……。

A. 私がスウェーデンの保育園で強く印象に残
ったことの一つとして、移民の子どもが多いとい
うことです。特にある地区では家賃が安いので
外国人が多く住み、その結果、その地区では12
か国もの子どもが入園しているということでした。

私が見た限りでは、人種に関係なく、子ども
たちは仲良く遊んでいました。しかし、やはり
コミュニケーションがうまくとれない場合もある
と思います。言葉が増え、会話の内容が豊か
になっていく時期でもあるし、言葉の問題はと
ても重要だと思います。

困難なのは、保育者と親との会話や懇談会の
ときなどだそうです。園と家庭が共に子育てを
していく上で、習慣や感覚の違いを乗り越えて
話し合っていかなければならないのですから、
とても大変なことだと思いました。

夜間保育について

Q. 24時間オープンの園があるそうですが……。

A. アポイントメントを取ろうと努力して、最後
によりやく訪問することが出来たのが、夜間保
育をしている保育園でした。

Q. 本当に24時間オープンしているのですか？

A. ええ。親はレストランで働いていたり、飛行
機に乗っていたり、音楽家であったり、とい
った人たちです。

見たところ、ベッド数は16台で、夜間は2人
の保育者で世話をしています。親にとっては安
心して預けられると思うのですが、保育者が交
替勤務ですから子どもにとっては落ち着かない
生活になるのではないかと考えられます。

ストックホルムには、3つの24時間オープ
ンの園があると聞きました。

Q. スウェーデンに行って、とてもよい勉強をし
てこられましたね。日本の保育を考えていく上
で、いろいろなヒントが出てきそうです。あり
がとうございました。

『世界の留学—現状と課題—』

権 藤 与志夫 編

本書は世界的視野に立って、留学の現状と課題を明らかにしたものであり、各国の事例が分析されている総合的研究書である。

第15章スウェーデンの留学施策は、中嶋博当研究所顧問によって認められている。ちなみにその内容は、1. 国際社会スウェーデンにおける“開かれた”政策、2. T・フセーン教授の教育の国際化と留学に関する見解、3. 留学実施体としてのスウェーディッシュ・インスティテュート、4. 留学促進のためのスウェーデン国際大学連合体、5. 民間留学推進団体としての日瑞基金よりなっている。

日瑞交流に関心をもつ人、これから同国に留学しようとする人にとってのガイド・ブックとしても好適と考えられる。(東信堂刊・¥3,914)

〈SIPニュース〉

修正財政法案、1992年度の景気回復を予想

スウェーデン政府が4月23日に提出した1991/92財政年度修正財政法案の骨子次の通り。

「目下のスウェーデン経済は低成長や失業増に裏づけられるように、景気後退期にあるが、将来見通しは、過去数ヵ月間で改善してきており、国際景気も本年度下半期に回復することが見込まれている。

スウェーデンの労働市場の大部分では安定化協約が合意に達しており、これは賃金上昇及びインフレ率における極端な下降につながるであろう。工業生産及び輸出成長に導かれ、GDPは来年度1%の成長を示すものと見込まれている。景気回復は主として、諸外国との競争にさらされる部門で期待できそうであるが、保護されている部門の拡張は限られたものとなろう。ただし、1991年、1992年は、労働市場にとっては困難な年となるであろう。

今後、2、3年の経済政策は主な役割とは既に実施された、もしくは現在履行されている構造改革を十分に促進するべく、それが生産性及び生産成長の増大に寄与するような効力を有することである。

失業や福祉が擁護される場合、インフレ対策が他の希望や要求に優先されねばならない。既に合意を得ている安定化協約は賃金コストが1991年度に5%、1992年度に3%以上増加することを前提としている。

財政政策は今後もインフレ抑制を指向する予定で、ひき続き公共支出を強力に引き締めることが必要とされよう。なお、家計の貯蓄は、主として税制の変化に伴ない、増加が予想されている。また、競争力強化のための措置が価格に圧力をかけ、商業部門の効率の増加の上で、重要な役割を果たしていくこととなろう。

経済政策はまた、スウェーデンの国際的な統合への積極的参加を保証するものでなければならない。従って、欧州経済エリア協定に関する交渉が一番の優先権を有しており、同協定は今夏締結の見込みである。因みに、1991年度中に、政府は再度ECへの加盟申し込みを予定している。価格安定を確立する努力はスウェーデンの対欧州政策の重要な特徴と見なされるべきで、それらはEC内の努力に同調しつ

つ、金融及び為替レートにおけるより密接な協力の基礎を築くものである。

スウェーデン政府は、1992年度のGDP成長を7%と見込んでいるが、それと共に、製品及びサービスの輸出及び輸入の成長をそれぞれ3%、2.3%と予想している。また、民間消費及び公共消費の伸びは各1.2%、0.3%であろう。総固定投資は1.4%の減少を示すであろう。時間給は3.5%の上昇が見込まれているが、消費者物価も3.2%の上昇を示すであろう。失業率は1991年度の2.6%から1992年度に2.8%に上昇するであろう。経常収支赤字は目下434億クローナ（1兆1,284億円）と見込まれているが、1992年度には474億クローナ（1兆2,324億円）に増加するであろう。

工業の経済展望

スウェーデン工業連盟はスウェーデン経済に関して、比較的深刻な見通しを抱いており、本年度、来年度にGDPがそれぞれ1.5%、0.5%の減少を示すことを予想している。また、総固定投資も1991年度、1992年度に各5.3%、2.3%（前年度比）の減少が予想されている。なお、工業投資の下降率は本年度14.5%、12.3%と見込まれている。なお、製品輸出及び輸入は1991年度に、それぞれ2.5%、2%、また1992年度には1.0%、1.2%減少するものと見込まれている。

スウェーデン経済の構造上の大問題は人的資源を効率良く配分するような賃金形成システムがうまく働いていないことにある。とりわけ、これにより、人的資源が不適當な部門に流入し、そこで滞ってしまうために、流動性が下降し、結果的に経済コストの極端なオーバーが起きている。」（SIP 138/91）

1990年のスウェーデンの実質移民数、3万4,800人

中央統計局によると1990年度のスウェーデンへの移民は1989年度比で9%減の6万人であった。なお、我国への移民が減少したのは1983年来のことである。スウェーデンへの移民は1970年に7万7,000人というピークを示して以来、かなりのハイレベルをキープ、現在に至っている。我国への移民は主として、アジア、南米、アフリカからの難民と北欧諸国——主として、ノルウェー——から職を求めてやってくる人達よりなる。

一方、1990年度の海外への移民数も増加を示し、2万5,000人を記録したが、このうち9,000人はスウェーデン人で、その3分の1は近隣諸国に、約1,000人は米への移民であった。結果的に我国への実質移民は3万4,800人で、1989年度より9,500人少なかった。

1990年度の我国への移民の出身地域別内訳次の通り。近隣北欧諸国からの移民——1万8,100人、アジアから——1万7,300人（1989年度は1万8,300人）、アフリカ諸国——4,300人、南米——2,900人（1989年度は7,000人）、北欧以外のヨーロッパ諸国——1989年度比で1,500人以上少ない1万3,100人。因みに、北欧以外のヨーロッパ諸国からの移民で多かったのは、ユーゴスラビア人、ポーランド人、ルーマニア人の順であった。（SIP 095/91）

小売の営業時間に関する調査；スウェーデンは 諸外国より比較的自由

公式の調査結果によると、スウェーデンの小売り業における営業時間は1970年代初期に統制が撤廃されたので、日曜日に店を開けている百貨店は、1974年には全体の22%であったのが、現在では80%にまで増加した。同調査で、EC共同体では営業時間の更なる自由化傾向が存在するものの、スウェーデンと同程度に店舗自体に有利な決定がなされている国はEC中に単独では存在しないことが明らかとなった。

スウェーデンの小売りは金曜日にピークに達するが、その日の売上は1週間の売上の25%を占めるといふ。各曜日の週全体の売上に占める割合は次の通り。月、火、水、木、土が各12—16%、日曜—6%。ただし、専門店の場合、日曜の売上げが週全体のそれに占める割合は2—12%と一様でないが、部門別にみて同割合が最高だったのは家具店であった。

消費者への調査では、かれらの54%が年に少なくとも1日だけ日曜日に店が開いていけばよいと考えていることがわかった。また43%がいつも閉まっているべきだ、との解答をよせた。なお、日曜日に店を開けるか、閉めるかは店舗にまかせるべきだと解答した人が過半数の63%を占めた。

通常の営業時間にのみ働いている小売業に従事する従業員のうち、60%が日曜は店を閉めるべきだとの解答をよせた。一方、不便な時間帯に働く人の60%は、日曜は店をあけるべきだと考えていた。また、あらゆる店の経営者の70%以上が、これは彼らの決定にまかせるべき問題である、と考えていることが判った。(SIP 064/91)

東西の時間の配分に関する研究

研究によると、スウェーデンの男性とアメリカ合衆国の男性は週に同じ時間だけ(58時間)働いていることが判った。すなわち、スウェーデンの男性は一週当たり有給労働に40時間、家庭内労働に18時間を費しており、米男性の場合はそれぞれ44時間、14時間であったという。同研究は「時間の配分、実験による発見、行動に関するモデル、測定の問題」(The Allocation of Time, Empirical Findings, Behavioral Models, and Problems of Measurement)といい、社会経済研究のためのスウェーデン工業研究所(IUI)によって発行されたものである。

日本では、男性は週に56時間働くというが、そのうち家庭内労働にさかれる時間はわずかに4時間である。また、ソ連男性の場合、週あたりの労働時間は66時間、有給労働と家庭内労働にあてられる時間はそれぞれ54時間、12時間である。

米男性の余暇時間は42時間と最も多く、次いで多いのは日本人男性の40時間であった。以下は主要各国の男性の余暇時間—スウェーデン人(39時間)、ソ連(35時間)。米男性は余暇時間のうちの15時間を社会事業に、また、21時間をテレビ等の受動的なレクリエーションに費していた。その他の国々のこの割合は以下の通りであった。スウェーデン人—10時間と21時間、日本人—8時間と26時間、ソ連人—8時間と22時間。

眠りを含む個人の衛生に費される時間は日本人が72時間以上、スウェーデン人が71時間であった。また、米人とソ連人は68時間で同じであった。(SIP 015/91)

《会員の皆様にお知らせ》

新しいNHK社会福祉セミナー7—9月号に前号に引き続き当研究所常務理事で早稲田大学教授の岡沢憲美氏による『いま、スウェーデンを語る』のシリーズ第2回目として、「福祉社会と女性環境の整備」が掲載されています。

興味のある方はどうぞ最寄りの書店か又は、直接日本放送出版協会でお求め下さい。定価は一部670円です。